

2. 眼科疾患領域におけるOHP技師の対応

荒野隆之 谷村 仁 中越 潔
古川博一 渡部 悟 沢口智美
下山芳正 峯廻攻守 前久保博士
(医療法人手稲溪人会病院ME部)

医療法人手稲溪人会病院は1987年12月に、総合病院を目指し札幌市手稲区に開設した。診療科目17科、病床数500床という大規模な病院の中に当ME部がある。現在は臨床工学技士4名、ME技師3名のスタッフで、①人工呼吸器部門②高気圧酸素治療部門③透析室ME部門④OP室・ICU部門⑤心臓カテーテル検査部門⑥ESWL部門⑦人工心肺・補助循環部門⑧ME機器管理部門の8部門を担当している。今回は特に、高気圧酸素治療部門の眼科疾患に対するOHP技師の対応に付いて報告する。

3. 夏季時1人用装置における快適治療

高山 功 秋元昭子 坂本美智子
原田雅義
(医療法人東明会原田病院高気圧酸素室)

当院における1人用治療装置は温度の制御機能が設置されていない為に夏季時には発汗により不快な状況下で長時間治療を受けなければいけないという事は、狭い密封された装置内では不安を一層募らせる結果になる。狭い密封された装置内で圧力を加えた状態では実際の温度よりも暑苦しく感じられる。これは装置内に入る寝台が合成皮革様であり通気性が悪い為に背中が蒸れてしまう事も大きな要因である。そこで我々は装置内に排気ホースを装着して室内温と装置内温を測定し、寝台の上にタオルケットを敷いた場合と直に寝台に寝て治療を行なった場合を患者さんの発汗状況で比較検討した。さらに装置内の空気の流れが発汗に及ぼす影響があると推測し、煙を使い2ATA時の空気の流れを観察した。